

スノーシュー・かんじきハイキング

スノーシューやかんじきは、雪の野山を自在に移動するために考案された歩行道具で、これを足に装着して冬季の雪原や林間をハイキングします。このスノーシューやかんじきは、歩くスキーに比べて操作が容易で、初心者でも雪山の自然を十分に満喫することができます。特に林間で起伏のある場所の移動に適しており、活動中に野ウサギやテン、そして野鳥の足跡を見かけることも多く、またクロモジなど灌木の冬芽などを間近に見ながら、自然観察を兼ねたハイキングも楽しめます。



活動のねらい

・日常生活環境では体験することのない、冬の厳しい自然の中に直接身を置くことで、あらためて自然の多様性とその営みを認識し、自然と人間の関わりについて思索し自然に対する理解を深める。

一斉実施可能人数	100名	活動季節・条件	積雪期
所要時間	3時間～6時間	実施場所	周辺林間コース
主な対象	幼児～		
指導について	事前指導では、用具の取り扱い方、コースの概要、歩き方等を交流の家職員が説明します。自然観察の場合、研修指導員に指導依頼が可能です。		

活動の概略

冬季における雪中の活動プログラムであり、スノーシューまたはかんじきを装着して、敷地の周囲や自然観察路の林間コースを歩きます。実施する前には、必ず前日または当日に団体担当者と交流の家職員が事前打合せを行い、参加人数、指導者、活動時間、コース、使用する用具等について確認します。当日は、職員による事前指導の後、装備を調べ野外へ出て、団体の担当者または研修指導員に従って行動します。帰着後は、参加者の人数と体調を確認した後、事前打合せに従って用具等を返納し終了します。

準備物

交流の家が貸し出しできる用具・材料

スノーシュー、和かんじき、ストック(歩くスキー用)、必要により靴(歩くスキー用)、スパッツ、ハイキングコースの地図、無線機、救急バック

利用者または団体が準備する用具・材料

防寒と防水仕様の服装(上下セパレート式の雨具でもよい)、靴(登山靴やゴム長靴など水が浸透しにくいもの)、防寒用帽子、防水用の手袋(綿製品は不可。厚手の毛糸が好ましく、無いときは薄手のものを二つ重ねて着用しても可)、ゴーグル(サングラスでも可)、水筒、リュック
※靴やスパッツを持参できなかった方は、歩くスキー用の靴の貸し出しも可能です。

事務室または食堂で購入する物

携帯トイレ(使用したトイレ用品は交流の家で処分いたしますので、必ず持ち帰り事務室までご持参ください。)
※購入物品の金額については、利用申込書一式(プログラム教材・指導員申込書)をご確認ください。

当日の動き

(1) 打合せ	職員が積雪状況、天候等の情報を提供し、これに基づいて当日の日程を検討し再確認します。
(2) 健康調査	出発の前に参加者の健康状態を調査し、参加人数を確認するとともに用便の有無を確認します。
(3) 用具の受け取り	事前打合せに基づき、無線機等の用具を事務室の受付窓口で受け渡します。
(4) 事前指導	スノーシュー・ストック等用具の選択、装着、歩行、返納等その取り扱いについて説明します。 (靴とスパッツを貸与する場合は、その取り扱い方も併せて説明し、装着します。) 野外の活動に必要な知識、技術、心構え、安全等について説明します。
(5) 活動(展開)	団体の指導担当者または研修指導員の案内により、予定したコースを歩きます。 動物の足跡や植物についても適宜解説を織り交ぜ自然に対する興味を喚起し、自然に親しむとともに理解を深めます。
(6) ふりかえり	帰着後、参加者の人数と体調を確認します。 活動を振り返り、目標の達成度や活動中に気付いたことを整理し、今後の課題を明確にする。 用具の破損や紛失の有無を確認し、必要があれば事務室へ連絡します。
(7) 用具の片付け	用具に付着した雪や水滴をブラシで取り除きます。 団体担当者は、片づけ終了後全体の返納状況を確認し、適宜指示あるいは手を加え、必要があれば事務室へ連絡します。 乾燥室の利用を希望する場合は、予め事務室へご連絡ください。

安全対策・環境への留意点

冬季の厳しい自然環境の下で実施するプログラムであり、特に防寒と歩行用具の故障に留意しましょう。防寒については、過度の厚着を避け、適度に発汗を促す服装が好ましく、更に天候の急変等に備え予備の衣類を携行するよう心掛けましょう。なお、軍手など綿製品の手袋は水分がしみ込みやすく、一度濡れると保温力が著しく低下しますので好ましくありません。出発前に歩行用具のサイズの適否、機能の不備の有無、使い方を再点検し安全に務めましょう。また、出発前には参加者に用便を促すよう心掛けることも必要です。

備考

◆スノーシューやかんじきを使用する活動プログラムの発展例

○アニマルトレッキング

雪面に残された動物や野鳥の足跡を観察し、どんな生き物が、いつ頃、どんな姿で、どちらに向かって行ったのか想像しながら林間の足跡たどります。三瓶山北の原では、野ウサギ、テン、キツネ、ヤマドリなどがよく歩いています。当施設では、ガイドブックを携行したり、研修指導員に解説を依頼して更に理解を深めることもできます。